月刊 つばさ

あなたと、あなたのお店を訪れるお客様の健康のために、お役に立てたら幸せです。

ORTIC

2012年1月号

起業して30年残る会社は、全体の0.03%

年明けから縁起でもない、と思われたでしょうか。弊社でも朝礼でこの話をした時、全員がショックを受けたようでした。でも、厳しい現実を知ることで、組織の士気が高まったように思います。

というのも、弊社のグループは今年、20周年を迎えます。ここまでこれたのも、お客様、お取引先様のおかげだと深く感謝致しております。

ただ、喜んでばかりもいられません。あと10年生き残るのがいかに難しいかということを会社全体で認識し、取り組んでいきたいと思います。

これまで私は「自分が誰よりも働き、熱弁をふるうことで、みんながついてきてくれる」と思っていました。しかし、10年後を見据えた時、それではだめだと気づいたのです。

ORTIC号を私一人で引っ張っていく時代は終わり、これからは役割を担う一人一人が、自ら車輪を回していく時代が求められます。日々の仕事に常に問題意識をもち、会社のために積極的に提案をしていく…そんな「一人一人がいつも全体を見ている組織」にしたいのです。

最初から理想どおりにはなれないし、これで完璧！というゴールがあるわけでもないのですが、全員でその時その時のベストを尽くし、それを積み重ねていきたいと思っています。もちろん、生き残ることだけが目標ではなく、10年後にさらなる飛躍をしていたいです。

2012年、ORTICスタッフ一同は、10年後に向けた「攻めの組織づくり」を始めます。どうか皆様、本年もご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

株式会社ORTIC
代表取締役
印藤晴子

スタッフ日記 ～2012年の抱負～

印藤晴子

年の初めに誓いを立てるのって大切だと思います。でも、立てっぱなしで終わっちゃダメ。だから、ちゃんと人前で公言して、お互いにチェックしあうことも必要かも。さぁ皆さん、２０１２年の抱負を語ってください。そして、みんなで首を絞め合うことなく(笑)、誓いを守りましょうね。

毎年変わらない抱負は「感謝の気持ちを忘れず、職場でも家庭でも『ありがとう』を口に出す」ことと、お客様に元気になっていただく仕事なので「まずは自分の健康管理をしっかりする」ことです。これはたぶん、ずっと変わらないですね。そして、２０１２年の抱負は「きれいな日本語を使う」ことと「一つ一つの仕事の能率を上げて、全体の効率をよくする」ことです。忙しくても質の高い仕事をしたいと思ってます。

後藤小百合

今年の夏には、ＯＲＴＩＣに入社して５年目を迎えます。世の中の経済状況は相変わらず厳しく、目まぐるしく変化もしますが、責任転嫁をせず、言い訳をせず、全力で仕事に取り組もうと思っています。頑張って、スタッフの見本になれたら…なんて思います。家族も大事にしたいし、子どもの成長も楽しみですが、２０１２年は「仕事あってこそのプライベートかな」と思っています。

重富幸治郎

仕事では昨年同様、パソコンのスキルアップを目指します。資料などをデザイン編集したいのだけど、いつも途中でわからなくなり、重富に教えてもらいます。だから、２０１２年の抱負はズバリ「重富に頼らないで、パソコンを扱う」です。プライベートでは、知り合いがやっているメイクアップ教室を見つけました。今年は時間を見つけて通おうかと思ってます。いつかメイクの慰問に行けるようになるまで、腕を磨こうと思います。

実松千恵子

新商品のキャンペーンが始まって、今、社内は活気づいています。２０１２年もこの雰囲気を絶やさず、みんなでさらに盛り上げていきたいです。プライベートでは、昨年から始めた自分を磨くための勉強を続けていきます。一つは韓国語で、もう一つはパソコン。今は動画編集にも興味があって…いつか、うちの愛犬２匹を題材にした動画が作りたいと思ってます。頑張ろっと！

沖知美

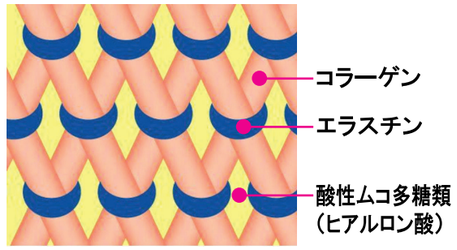
株式会社オルテェック
〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-41 福岡朝日会館11階
TEL.092-737-2128 FAX.092-737-2137
http://www.ortic.co.jp

サプリのはなし コラーゲン製品には、エラスチンを！

2011年3月「コラーゲンだけを摂取していると、皮膚も血管も硬くなってしまう」という驚くべきデータが学会で発表されました。アンチエイジングの切札とされたコラーゲンの市場に今、大きな変革が起きようとしています。

エラスチンのことをご存じですか？

真皮の構造



エラスチンはコラーゲンと同様に、細胞外で働く繊維状のたんぱく質です。ゴムのように伸び縮みする性質（弾性）があり、組織に柔軟性を与えています。

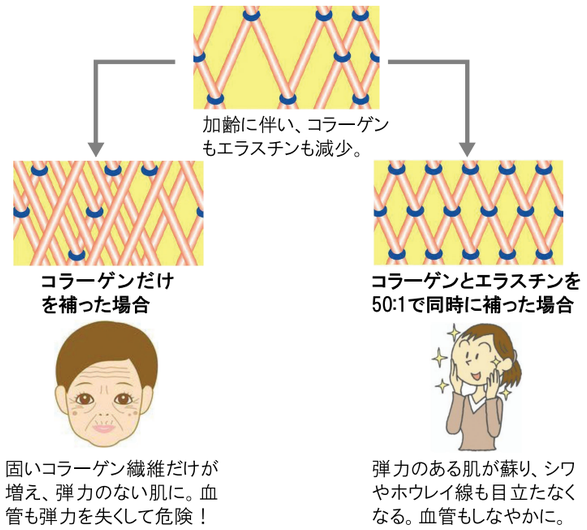
一方、コラーゲンは剛性の性質をもち、伸びないワイヤーのような働きをしています。エラスチンとコラーゲンは共存する状態で組織に存在し、皮膚の真皮・靭帯・腱・血管壁など伸縮性の必要な器官に広く分布しています。左の図のような状態ですね。真皮層でエラスチンとコラーゲンの割合は、ちょうど「1:50」になっています。

エラスチンとコラーゲンの関係は…

エラスチンはコラーゲン繊維を束ねて、肌に弾力やハリをもたせる重要な働きをしています。エラスチンが減少したり変性したりすると、ゴムの働きを失った肌はたるみを発生させてしまいます。加齢に伴い、コラーゲンもエラスチンも減少していきますが、従来の知識で、コラーゲンだけを補っていると、固いコラーゲンの繊維だけが増えて、肌は弾力をなくし、シワも増えます。同時に血管も弾力を失い、非常に危険です。

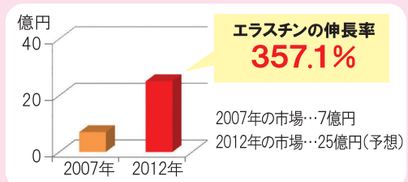
コラーゲンとエラスチンを同時に摂取することで、弾力のある肌としなやかな血管が保てるのです。

加齢による変化



エラスチンがコラーゲン市場を変える！

近年、コラーゲン製品は体感効果の高さを武器に、需要開拓が進んでいます。特に日本製品は、作用メカニズムの追及や治験データが充実しているため、欧米やアジアからも認知されてきています。 そして現在、コラーゲン製品の体感性をアップする素材として、エラスチンが注目され始めました。エラスチン配合のコラーゲン製品が出ることにより、市場規模のさらなる拡大が見込まれます。



それ、ウソです

丸山寛之

第50回

大ヤブ女医の妄言

丸山寛之 プロフィール

医療ジャーナリスト。NPO法人日本医学ジャーナリスト協会会員。1932年、鹿児島県生まれ。新聞記者、医学雑誌編集者を経て医療ライター。1960年代初めから面接取材した医師・医学者は優に1000名を超える。著書＝「がんはいい病気」（マキノ出版）「読むサプリ」（明拓出版）「この酔狂な医者たち」（草思社）「ビジネスマン元気術」（日本マンパワー出版）など。雑誌「壮快」に「名医が聞く」連載中。Webサイトに「健康1日1話」http://www.maru-san.info/ を開設。毎日更新している。

「あなたの症状では、うちの病院でもう対応できません」（「がんを知る」＝朝日新聞2011年10月25日朝刊）

がんの放射線治療を特集した紙面の別項目（患者の体験談のコラム）の冒頭に出てくる医師のことばである。そのあと、記事は、こう続く―、

2009年7月、自宅から近い東京都内の大学病院。女性医師は、淡々とした口調で前立腺がんを告知した。転移はなかったが腫瘍が大きく、手の施しようがないという。他の施設で治療の継続を希望したが、医師は「紹介できる病院はない」と言うだけだった。―以下、略―。

前立腺がん患者会「TOMOの会」幹事の辻聡さん（78）の体験である。

読んで、おどろき、あきれ、怒りを禁じ得なかった。

辻さんは、その3カ月前の検診で、前立腺がんの腫瘍マーカー「PSA」の値が正常値を大きく上回っていることがわかり、この大学病院で精密検査を受けた。

筆者（丸山）も、10年余にわたる前立腺がんの患者である。

がんが見つかったのは、辻さんよりも10年前の1999年10月で、そのときのPSA値は超ビックリの241！（正常値は4以下）、がんが前立腺の被膜に浸潤したステージCと診断された。辻さんの「症状」とほぼ同じか、それ以上だったと思う。

だが、「手の施しようがない」などとは言われなかった。

がんが前立腺内に限局しているステージAかBだったら、根治手術の適応だが、ステージCの手術成績はあまりよくないから―と、ホルモン療法（前立腺がんを増殖させる男性ホルモンのテストステロンの産生を抑える治療法）を受けることになった。

ひと昔前でさえ、そうした治療が普通に行われていたのである。

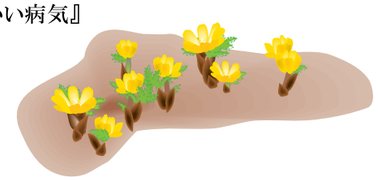
なのに、現在の大学病院で「うちの病院ではもう対応できません」とは、どういうことか？ 「手の施しようがない」「紹介できる病院もない」とは、なんたる言いぐさか！

どこの大学病院かは知らないが、そんなことがあるわけがない。「私には対応できません」「私は、紹介できる病院を知りません」という自分の無能、無知を「うちの病院」にすり替えたのだろう。

こんな非人間的なヤブ医者の妄言を受け入れていたら、命がいくつあっても足りない。

辻さんは、インターネットで、放射線治療の新装置「トモセラピー」を備えた病院を探し当て、治療を受けて、すっかり軽快。「今では週1回、社交ダンスで、（TOMOの会の）仲間と共に汗を流すのが生きがいだ」という。つくづく「医者を選ぶのも寿命のうち」だと思わされる。

トモセラピーというのは、強度変調放射線治療（IMRT）と呼ばれる照射装置の一つ。

前立腺のように周囲にさまざまな臓器（尿道、直腸、膀胱など）が入り組んでいる部位のがんには、放射線を一方向から照射する定位放射線治療は不向きなので、放射線を複数の方向から凹凸状に照射しがんに当てるIMRTが開発されて、08年からは健保適用になっている。

丸山も、ホルモン療法のあと、IMRTの簡易版のような画像誘導照射法（IGRT）を06年に受けて、がんはほとんど消滅。いまも毎日1時間のウォーキング（後ろ歩き500メートルつき）を欠かさない。PRになって恐縮ですが、そんなあれやこれやは、拙著『「がん」はいい病気』に詳述―。